

第 50 回

# 社会貢献者の記録



公益財団法人  
社会貢献  
支援財団

第50回

# 社会貢献者の記録



# 目次

---

表彰選考委員プロフィール	004
式典次第	005
会長挨拶	006
表彰選考委員長挨拶	008
受賞者代表挨拶	010
記念写真	012
表彰式スナップ写真	014
来賓祝辞	022
祝賀会スナップ写真	024
社会貢献者表彰とは	028
受賞者手記 目次	029
人命救助の功績	031
社会貢献の功績	055
資料編	114

# 表彰選考委員プロフィール

委員長



脚本家 東北大学相撲部総監督

内館 牧子

東京都教育委員会 教育委員ほか

脚本：「ひらり」「てやんでえッ!」「私の青空」「毛利元就」「エイジハラメント」ほか多数

著書：「終わった人」ほか多数

委員



元国税庁長官

大武 健一郎

関西大学客員教授 認定 NPO 法人ベトナム簿記普及推進協議会理事長

著書：「平成の税・財政の歩みと21世紀の国家戦略」「税財政の本道―国のかたちをみすえて」ほか多数

委員



産経新聞 東京本社 編集局 副編集長

小川 記代子

委員



久米繊維工業株式会社 取締役会長

久米 信行

著書：「メール道」「ブログ道」(NTT 出版)「NPO のための IT 活用講座 効果が上がる情報発信術」「すぐやる人だけがチャンスを手に入れる」ほか

委員



ノンフィクション作家

吉永 みち子

「羽鳥慎一 モーニングショー」コメンテーター

「あさチャン! サタデー」コメンテーター

著書：「気がつけば騎手の女房」「性同一性障害」「26の生きざま」「老いの世も目線を変えれば面白い」「試練は女のダイヤモンド」ほか多数

# 式典次第

---

## 第一部 表彰式

10：30…開 式

- ・ 会長挨拶
- ・ 表彰選考委員長挨拶
- ・ 表彰状並びに副賞の贈呈
- ・ 受賞者代表挨拶

12：30…閉 会

## 第二部 祝賀会

12：30…開 宴

- ・ 来賓祝辞
- ・ 乾杯のご発声

13：30…閉 宴

(2018年7月6日 於帝国ホテル東京)

## 会長挨拶

皆様おはようございます。社会貢献支援財団の会長を務めさせて頂いております安倍昭恵でございます。

本日は500名近い皆様のご臨席いただきまして、第50回社会貢献者表彰式典を開催できますことを大変嬉しく、心より感謝申し上げます。

また本式典の開催にあたりましては、ご支援いただいております日本財団はじめ、候補者を推薦下さいました皆様、そして関係各位にお礼申し上げます。

本日は、人命救助の功績、社会貢献の功績合わせまして40件の活動を表彰させていただきますが、日本のみならず世界でも、献身的に活動される方が、こんなにも多くおられる事に、毎回感動を致します。

受賞者の皆様、その活動を支えていらっしゃるご家族はじめ関係者の皆様には心から敬意を表しますとともに、また、心からお祝いを述べさせていただきたいと思っております。また今回の人命救助では、救助中に、残念ながら命を落とされた方もいらっしゃいます。ご遺族に対し、心から哀悼の意を表しますと共に、佐々木淳さんが安らかにご永眠されますようお祈り致します。

さて、私もこれまで、過去の受賞者の方の活動の現場にお邪魔させていただいておりますが、本日お話いたしますのは、第49回受賞者の福岡県田川市にあります「NPO法人田川ふれ愛義塾」についてです。

現在日本には103の更生保護施設があり、そのほとんどが成人対象ですが、「田川ふれ愛義塾」は数少ない少年対象の施設で、更に唯一、女子の更生保護施設を併設し、民間のNPO法人が営む施設としては全国で初めて法務大臣の認可を受けられました。

ここでは、少年院を出院し保護観察中に、更生保護施設の入所を断わられたり、ひきこもりや、親の引き受けが困難な、全国の少年少女の最後の砦として、共同生活をしながら立ち直りを支援する事業が続けられています。

元々は、暴走族の総長だったというこの施設の代表が、暴走族を解散し、200人の人に迷惑をかけてきたなら、その倍の400人の人にありがとうと言ってもらえるようにボランティア団体を結成し、地元の行事への協力やゴミ拾いから始まった活動ですが、現在、田川市の教育委員会はじめ、警察や行政と連携して施設を運営されています。



私は料理作りを通じて塾生と交流を図ることを目的に、昨年、この施設をお邪魔いたしました。他の更生施設では引き取り手がないといわれた塾生たち。女子寮と男子寮それぞれで施設に来ることとなった経緯など、その過酷な生い立ちについて、胸に詰まるお話を伺う中で、この子どもたちが施設に入るようになった理由には、これまで信頼できる大人に繋がる事が出来なかったことがあるのではと思いました。そして、彼らには、これまでの境遇に囚われることなく、夢を持って、人を信じて、この施設で生き直しをしてくれること願うと共に、子どもたちを育てるための「地域の力」の大切さを実感いたしました。

本日の人命救助と社会貢献での功績の受賞者の皆様も、活動の内容や状況は違いますが、お1人お1人がその人々に寄り添われ、よりよい社会づくりに貢献されている方々でございます。

皆様方には、これからも活動を続けていただき、わが国が誰にとりましてもより住みやすい国になりますよう、お力をお貸しくださいますようお願い申し上げます。

本日ご列席の皆様のご健勝と一層のご活躍をご祈念申し上げまして、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

受賞者の皆様、本当におめでとうございました、そしてありがとうございます。

公益財団法人 社会貢献支援財団  
会長 安倍昭恵

## 表彰選考委員長挨拶(代読)

本日はお暑い中お集まり頂き、盛大に式典を行えますことを大変に喜んでおります。ありがとうございました。

なのに、選考委員長の私が体調を崩し、出席できずに本当に申し訳ございません。出席するつもりで選考過程のご説明など、原稿もできあがっていましたが、代読ということでお許し下さい。

今回は202件を、選考委員で熱っぽく議論、検討致しまして、人命救助の功績11件、社会貢献の功績29件、計40件の功績を表彰させて頂くことに致しました。

人命救助の功績につきましては、自然災害や天災、その他多くの危険な場から人命を救った方々です。

これは自身の命と引きかえになる場合さえあり、大変に重いことです。先日も、東京発大阪行きの新幹線の中で、女性客2人を刃物で襲った男の前に立ちはだかった30代の男性がおりました。女性客2人はおかげで助かりましたが、その男性は亡くなりました。

今回の受賞者の中にも、千葉の佐々木淳さんがいらっしゃいます。密漁を防ぐために海辺を巡回中、溺れている男性を発見してすぐさま助けました。ただ、佐々木さんは亡くなられました。

「噂供養」という言葉がございます。生きている人たちが、おりにつけ、亡くなった人のことを噂することを言います。「あいつ、いいヤツだったよな」とか、「彼女がこの場にいたらねえ」とか、ほんの一言でも、ことあるごとに噂することが、亡くなった人の何よりの供養になると言われます。

他人を助けるために命を落とした方々を、ぜひほんの一言でも、ことあるごとに「噂、供養」をすることが、生きている私たちの心をも救ってくれる気がしてなりません。

社会貢献の功績につきましては、国際活動16件、国内活動13件を、丁寧に検討させて頂きました。

海外の場合、ネパールやタイ、インド、シエラレオをはじめ、いずれも日本では考えられない厳しい環境下です。

たとえば、インドで25年以上にわたって無償のボランティアを続けておられる渋谷りつ子さんがいらっしゃいます。ご本人はピアニストをめざし、ウィーン音楽大学を卒業され、帰国途中に観光のためにインドのカルカッタに立ちよられました。そして、マザーテレサの家の重症心身障害児施設を見学に行きましたところ、考えが一変しました。「自分の役割は音楽ではなく、この子たちを助けるごとではないか」と考えたのです。以来25年間で、障害を持つ子供の養育ボランティア活動を続けておられ



代読 選考委員 小川記代子

ます。

また、子どもということでは、東京都の坂本洋子さんもおられます。坂本さんのご夫妻で33年間にわたって、里親になっていらっしゃいます。事情があって親と暮らせない子を引きとり、現在は17人目の子どもです。今の時代にあっても、まだ「里親制度」は人々に浸透しているとは言い難いものがあります。しかし、坂本さんご夫妻は、33年間に「自分たちが手を差しのべれば、子どもは必ず輝く」と決意されました。大変な英断であったと思います。

私の友人に9歳の時に5歳の妹と共に、両親に捨てられた人がいます。親戚をたらい回しにされ、ろくに食べ物も与えられませんでした。それでも空腹に耐える幼い妹が不憫で、9歳の兄は盗みも働きました。

その後、親戚はやっかい者を追い払いたく、2人を養護施設に入れました私は大人になってからその彼と知り合ったのですが、ハッキリと言っていました。

「養護施設は天国だった。先生は抱っこしてくれて、妹はよくその腕の中で眠っていた」

彼と妹は今、立派な社会人になり、幸せな家庭を作っていますが、ずっと養護施設の支援を続けています。愛して育ててくれたお礼だと言っていました。

先般、5歳の女の子が実母と継父に虐待の限りを尽くされ「もう許して」と書いて餓死同様に亡くなりました。

私は断言できます。子どもを育てるのに、本当の親も里親も養護施設も関係ないということをです。重要なのは、子どもが「愛されて育った」という意識を持つかどうか、その一点だと思います。

もう1人、私と同世代の男性ですが、とても貧しい養父母に育てられました。今でも明確に「実の親を思い出したことは一度もない。貧乏だったけど、愛されて叱られて、本当に幸せに育ててもらった」と言います。

わずかなこの時間で、3人しかご紹介できませんでしたが、今回表彰を受けられる方々のようなお力が、住みにくい人の世をどれほど住みやすくしているかわかりません。

最後になりますが、毎回、曾野綾子元選考委員長はこの壇上で仰っておられました。「どうぞ、副賞のお金はご自身やグループのためにお使い下さい。ずっと欲しかったお洋服を買うとか、仲間たちと温泉に行くとかおいしい物を食べるとか、どうぞそっうやってお使い下さい」ということです。

これはいけないことではなく、それによってまた力が湧き、リフレッシュされ、再び活動して頂くモチベーションになると、私も考えます。

遠慮なく、ぜひそうなさって下さい。

本日はおめでとうございました。そして、ありがとうございました。

公益財団法人 社会貢献支援財団  
選考委員長 内 館 牧 子

## 受賞者代表挨拶

皆様こんにちは。滋賀県から参りました、青木義道と申します。

この度はこのような素晴らしい式典を私たち受賞者のために、盛大な形で開催いただきましたことを、受賞者を代表して感謝を申し上げます。ありがとうございます。

今回の受賞を通しまして、わたしは素晴らしい取り組みを国内外でされている受賞者の皆様とお知り合いになることができ、様々なことを教えて貰うことができました。それが私にとって大きな財産となりました。

特に活動に向けての熱い情熱、今までのご苦勞、ご努力、そういったお話を聞いていると心が熱くなることばかりの2日間でした。

そんな受賞者の皆様に代表して今回ご挨拶させていただくということで、誠に恐縮に思っておりますが、ひと言ご挨拶させていただきたいと思えます。

私は滋賀県で公立中学校の教員をしております。皆さんはご存知かどうかわかりませんが、滋賀県はブラジルやペルーを中心とした外国籍の住民の方がたくさん在籍されております。私は湖南市にあります日枝中学校という所で教員をしております。日枝中学校は約10%以上が外国籍の生徒です。大半はブラジルの生徒なのですが、その子どもたちが日本の学校についていけるような日本語の支援や保護者のサポート、通訳等を日々させていただいております。

私は学生時代に1年間ブラジルのサンパウロに留学していました。その1年間、言葉や文化の壁でなかなか苦勞して現地の方々にごく助けていただきました。その恩返しをしたい、そういった思いで日々仕事やボランティアをさせていただいています。

そのなかでひとつ、私の取り組みをこの時間をお借りして紹介させていただきます。

実は日本の教育現場では、日々たくさん書類が配布されます。保護者にとってはどの書類が大事か大事でないかというのが理解できずに困っておられる現状を長い間見てきました。

私は子どもたちや保護者に書類の重要性を伝えられるスタンプのようなものが作れないかなと家の中でもよく話していました。あるとき妻が私の誕生日にサプライズでこのようなスタンプをプレゼントしてくれました。ちょっと小さくて見えないと思うのですが、ポルトガル語で“Importante!”「重要」という意味です。私の似顔絵も描



いてあるのですけれども。これを私の妻が特製で作ってくれまして、プレゼントしてくれました。

早速翌日から使用することになりまして、保護者や子どもたちから書類の重要性が薄くわかるようになったと喜んでいただきました。その知らせが色んな地域に伝わることになりまして「このスタンプを欲しい、使いたい」といった嬉しいお声がけをいただくようになりました。そして毎日新聞の全国紙でこういったスタンプの取り組みをご紹介いただくことになりまして、その記事が英訳もされまして世界にも届くことになりました。このニュースを知ったブラジルの国民的な漫画家であられます、マウリッシオ デ ソーザさん、この方はブラジルを代表する漫画家で、日本に住むブラジルの子どもたちや外国籍の子どもたちの教育問題を常に心配されておられました。何か協力したい、このスタンプの取り組みを拡げたい、そういったお声がけをいただきまして、新たな形でこの方の代表作「モニカと仲間たち」のイラスト、かわいらしいイラストのつきました特製のスタンプが作られ全国のブラジルや外国籍の子どもたちが在籍している小中学校や地域に無償で配布されるようになりました。この寄贈運動は現在も続いております。

いち公立教員であります私のささやかな小さなアイデアだったのですが、ブラジルの偉大な漫画家の方のご支援、多くの方々のお力添えをいただきまして、このような拡がりを見せていることを非常に嬉しく、感動しております。

以上が私の代表的な取り組みのひとつなのですが、活動を振り返りまして何ひとつ私一人で出来たことはなかったと思っております。受賞者の方もそうっておられる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。常に活動を理解し、サポートしてくれる家族、活動に賛同し一緒に手を取り合って活動してくれる友人やボランティアの方々、そうした方々のお力添えがあってこそできた取り組みが今回の受賞へ繋がったかと思っています。

受賞者を代表して心より感謝申し上げます。今回の受賞をこれからの活動の励みとし、今後とも一步一步前に進めていけたらと思っております。

本日はありがとうございました。

青 木 義 道

# 記念写真




  
 杉本 匡史      柳瀬 一成      馬場 秀樹      小畑 省一      大芦 正人      中野 千春 中野大輔 代理      櫻田 洋      田上 雅喜      清水 虹平      松浦 宏太


  
 加藤 宙      カズヒリヨ マリセル カバキット      クルス アイリッシ リコ      石黒 優子      安倍 昭恵 会長      川崎 大輔      鈴木 正人 茨城県立商業高等学校      故 佐々木 淳 代理 佐々木 末子      辻 慶太



- |          |                                |  |                                  |                     |                 |                  |              |                                |                          |                 |
|----------|--------------------------------|--|----------------------------------|---------------------|-----------------|------------------|--------------|--------------------------------|--------------------------|-----------------|
|          |                                |  |                                  |                     |                 |                  |              |                                |                          |                 |
| 坂本 洋子    | 精神障害者回復プログラム委員会<br>石山 貴博       | 犬飼 公一  | 北村 正樹<br>京都難病連                   | 鈴木 健大               | ワシネタルフ<br>三宅 隆之 | 伊藤 宏基<br>ワシネタルフ  | 岡谷 篤一<br>真照会 | ウタイ ハリハウ<br>タカール               | おつみ犯罪被害者支援センター<br>山田 尚登  | 島山 由美<br>だいじょうぶ |
|          |                                |  |                                  |                     |                 |                  |              |                                |                          |                 |
| チヨ チヨ カイ | 広瀬 紀子                          | 一粒会 母子生活支援施設<br>FAH(ふあむ) F.A.H.じむす<br>花崎 みさを | 登校拒否を克服する親子の会<br>フルタイムズ<br>松田 恵子 | 山勢 拓弥               | 富田 江里子          | 吉田 富美子<br>シンスター  | 渋谷 りつ子       | 渡部 朋子<br>ANTI-HISHIMA          | アジアの障害者活動を支援する会<br>前島 富子 |                 |
|          |                                |  |                                  |                     |                 |                  |              |                                |                          |                 |
| 青木 義道    | カンティエーニオ学園<br>虹の架け橋教室<br>辻村 浩子 | 祐川 郁生<br>うしろかむさす                             | ふじみの国際交流センター<br>石井 ナナエ           | アジア眼科医療協力会<br>黒住 淑子 | 安倍 昭恵<br>会長     | 日本介助大協会<br>高柳 友子 | 村井 俊治        | 沖縄県自立生活支援センター!<br>イルカ<br>長位 鈴子 | 北洋建設株式会社<br>小澤 輝真        |                 |

# 表彰式

















## 来賓祝辞

ご紹介賜りました日本財団の笹川でございます。

まずは長年のご労苦が認められて表彰されました皆様方に、心からのお喜びと尊敬の気持ちをお伝えしたいと思えます。

私自身、日本にいる限りこの会には毎回出席させていただいておりますが、若い時から少々涙腺が緩い方でございますが、お一人おひとりの紹介を受けるたびにどうやって涙をこらえるかというのが私の修養になっております。そして、年に2度になりました社会貢献支援財団の表彰式典で皆様方のご活動を見るたびに、私自身も啓蒙を受け、まだまだ頑張らないといけないという気持ちでいっぱいでございます。

もうすぐ80歳になりますが、年に5か月は世界中の僻地を回って活動させていただいております。とくにハンセン病の制圧、そして差別の撤廃のために活動していますが、これも今日表彰された方々のご努力が私自身の活動の精神的な糧になっているわけで、改めて感謝を申し上げたいと思えます。

日本は今、安倍総理大臣の下で一億総活躍社会の高い理想を掲げて実現を目指して活動していますが、国だけで達成出来るわけではございません。むしろ国よりも今日表彰されたような皆様方が日本の社会の隅々を見渡し、どこに社会課題があるのかということに気づかれて活動していただく過程の中で、一億総活躍時代にしなければいけないという高邁な政策が出てきたものだと思います。

日本の報道では、悪いニュースが良いニュースですので、先ほど介助犬を拜見しましたけれども、犬が人間を噛んでもニュースになりませんが、人間が犬を噛めば必ずニュースになるんです。そのように現在の報道では悪いニュースこそ良いニュース、良いニュースほど悪いニュースということで、なかなか良いニュースは報道されませんが、こんなことを言うと、私がバッジをつけていれば翌日には国会でいじめられるのですが、有難いことに民間人ですから無視され、批判を受ける立場でないのは大変ありがたいことです。

報道はされなくても、日本社会の長年にわたる伝統と申しますか、人を助ける、或いは困っている人がいたら手を差し伸べるといふ自然な無私的行為というものが、今日の健全な日本社会を作ってきたのではないかと思います。今日表彰された皆様のような方々のご活躍によって社会の基礎の部分を支えられているわけで、皆様方の活動と同時に、一人でも多くの方々にこういう活動に参加することが日本人としてごく当たり前になるように活動の輪を更に広げるようなお力添えをいただければ、さらに素晴らしい日本になるのではないかと思います。

たびたび報道の話をするのですが、新聞その他メディアは悲観的なことばかりを報道しますが、そうではありません。日本は歴史的に災害大国でございますが、災害のたび



に復興して更に強い強靱な国になってきました。皆様方の活躍は未来を明るくするために、そしてこれからの日本の社会を背負う若い人たちのモデルになっているのです。若い人たちはちゃんと見ていますので、必ず皆様方の跡を継いでやったださるものだと私は未来を信じていますし、これからの若い人たちに大きな期待を持っております。

少子高齢化で様々な問題がありますが、これまで困難を乗り越えてきた日本国ですから、皆様方こそがこれからの明るい希望に満ちた日本をつくる重要なお役目をしていらっしゃるわけです。これに続く若者たちもたくさん出てきています。私が務めている日本財団でもそういう若者たちを勇気づけて、彼らに明るい未来の日本をつくるために、そして世界のために貢献する若者をつくろうと努力をしているところです。

今回、社会貢献支援財団は50回ということで、特に海外10か国から表彰をされた方々が来日してくださいました。安倍昭恵会長ともお話したのですが、アジアの中で、グラスルーツで社会の底辺の人を支え、勇気づけ、彼らに夢と希望を持たせるために活動している人たちをアジアの中からも選んで表彰する制度をさらに拡大したらどうでしょうかと申し上げていたところですが、グローバリゼーションの時代ですから、日本だけではなく、アジアの皆様方と連帯して頂いて、持っているノウハウ、長年のご苦勞、専門的知見というものをアジアの方々にも共有していくということで、更に社会貢献支援財団が発展していただきたいと思っております。

安倍会長は単に名前だけの会長ではありません。先ほどご紹介がありましたように、先頭を切って表彰された方々のところにお邪魔し、どのような活動をされているかをつぶさにご覧になり、それを更に財団の活動の中に活かしていきたいとご活躍くださっています。また、選考委員そして理事の皆様方も、心を込めて日本の社会を良くする、アジアを良くする、世界を良くするというにお力をいただいております。これは政治だけで出来るものではありません。私たちは権利の主張も大事ですが、人間として権利の裏には義務がある。もう少し深く突っ込めば、一人ひとりの人生をいかに心豊かに過ごしていくかということを考えれば、皆様のような活動をすることが心豊かな恵まれた人生を歩む最大の方法ではないかと思えます。皆様方の活動が特別なものではなく、ごく当たり前の、日本人としてやらなければいけない、そういう義務もあるのだというような社会になるようにお力添えを頂いて、明るい未来の、社会全ての人が幸せに生活できる日本国にしなければなりませんし、そのモデルをアジアに、そして世界に広めて頂き、日本人の誇りを、皆様方を中心にして更に広めていければいいと思っております。

どうぞこれからも力強いご活躍をお願い申し上げ、涙があふれるばかりの皆様方のご活動を思いますと、心から感謝を申し上げたいと思えます。皆様の活動が社会にどれほど大きな影響と勇気を与えているかということについては心の中で誇りをもっていただき、今後ますます活動を活発にされることをお願い申し上げます。長い間、本当にご苦勞様でございました。そして、今日を機会に、新たな一歩としてさらなるご活躍を祈念申し上げます。

公益財団法人 日本財団  
会長 笹川陽平

# 祝賀会







